

原稿作成見本 (A4サイズ)

発表順に番号が入ります

1cm

2.5cm

2cm

15行

16cm

□□□□□ゴシック体で演題をご記入下さい□□□□□ } 2行

講演者名¹、著者名¹、著者名²、著者名²

京都府立医科大学大学院血液病態制御学¹、京都府立医科大学大学院分子病態・検査医学²

著者名が複数の所属に属する場合は、番号で対応させてください。

原稿作成見本

□【目的】多発性骨髄腫 (MM) に対する骨髄非破壊的同種造血幹細胞移植の有効性が報告されているが、ドナーの確保が問題となっている。そこでMMに対する母児免疫寛容仮説に基づくT細胞非除去HLA不一致同種造血幹細胞移植の安全性と有効性を検討した。【症例1】48才、男性。平成12年多発性皮下腫瘍を伴ったMMと診断され、NIMA相補的同胞SCTを実施したが腫瘍は残存したため、NIMA相補的同胞SCT (GVHD方向3座、HVG方向3座不一致)。生着は順調で、増悪なく経過。120病日に腫瘍の増大が抑制され、現在ほぼ寛解を維持している。【症例2】52才、男性。平成8年形質細胞性白血病と診断。治療抵抗性でありNIMA相補的同胞である姉をドナーとしてミニ移植を実施 (GVHD方向2座、HVG方向2座不一致)。生着は順調で、aGVHDはGrade1が出現したが速やかに軽快した。90病日に増悪し、現在サリドマイドによる治療中。【考案】いずれも非寛解期の移植だが、母児間免疫寛容仮説に基づくHLA不一致血縁者間ミニ移植は確実な生着が得られ、aGVHDのコントロールは容易であり実施可能と考えられる。本法はMMに対する同種造血幹細胞移植における血縁ドナーの拡大に有用であると期待される。(645文字以内)

43文字

2cm

2cm

著者名・所属
合わせて5行

[演題名：MSゴシック 11pt
著者名・所属・本文：MS明朝

※1ページに2名の掲載となりますので
見本サイズ内に収まる文章量で作成ください。